

中部E S D拠点運営委員会（第15回）議事メモ

日 時 平成21年2月19日（木）17時00分～19時00分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（810号室）

出席者 竹内委員長、千頭副委員長、寺井、羽後、高山、黒岩の各委員

オブザーバー 香坂氏、竹峰氏

事務局 岡本、永田

議 事

1. 報告事項

（1）アジアRCE若者会議について

2月9日・10日に仙台・宮城教育大学で開催された「アジアRCE若者会議」に、中部E S D拠点若者代表として参加した竹峰氏より、会議の内容・今後のあり方等の私見について、報告があった。

（2）国内RCE実務者担当会議について

2月11日に仙台市民活動センターで開催された「国内RCE実務者会議」に参加した岡本事務局員より、会議の内容について、報告があった（この会議の議事録は後日、国連大学高等研究所のHPより掲載される）。

（3）モリコロ基金の応募結果について

岡本事務局員より、書類上の不備によりモリコロ基金の応募が落選した旨、報告された。

（4）第2回伊勢・三河湾流域圏フォーラムについて

羽後委員より、1月25日に開催された「第2回伊勢・三河湾流域圏フォーラム」の報告があった。

2. 今後のアクションプランについて

（1）伊勢湾再生計画について

高山委員より、「「伊勢湾再生行動計画」のモニタリングと連携事業」の今後のアクションプランについて、以下のような案が出され、それを基に種々意見交換が行われた。

- 1) 2007年3月に策定された「伊勢湾再生行動計画」の進展をwatchし、見直し・改善の努力を支援する。また連携の可能性を模索する。
 - ・「伊勢湾再生行動計画が不十分である」ということは、行政関係者誰もが認識している。しかしそのことを誰も指摘をしていない。計画の通用期間は計10年あり、ダイナミックな見直しが必要であることを、中部E S D拠点協議会と伊勢湾再生研究プロジェクト社会系グループが連盟で申し入れる。ベースの研究は既に出来ており、文章化する。
 - ・国交省の担当者の言質をもとに改善の取り組みを促す。竹内委員長ルートで環境省への働きかけを行う。
 - ・中部E S D拠点協議会と伊勢湾再生研究プロジェクト社会系グループは、担当者へのアンケート調査等により現状をwatchし、公開する事業を行う。前向きな動き（名古屋市と愛知県の水循環政策等）を推奨する。
- 2) 地域発で始まっている流域圏再生の活動や取り組みを具体的に調査し、「伊勢湾再生行動計画」が謳う「多様な主体との連携と協働」の促進を図る。
 - ・伊勢湾流域圏の「里海」活動、政策の現状をいくつかの典型例について調査、実践する。
- 3) 「持続可能な伊勢湾域政策研究会」を共催で運営する。
 - ・来年度までの予算があり、研究会を共同運営する。

(2) COP10について

1) アカデミックな立場からの貢献について

竹内委員長より、愛知県の方から、中部E S D拠点協議会が中部地方の大学関係者の意見を何がしろのアカデミック（科学的）な提案としてとりまとめ、COP10の会議に提案して欲しい、との要請があった旨が、報告された。この要請に関して、要請を受けることを前提に、名古屋市立大学・香坂准教授（COP10 支援実行委員会・アドバイザー）を交え、主に以下のような種々意見交換がされた。

- ・COP10の本会議までにいくつか学術会議があると見込まれる。本会議で提案をインプットさせるためには、学術会議の日程を鑑みる必要がある。（香坂氏）
- ・COP10であらかじめ決められているテーマに対する提案なのか、もしくは新しいパラダイムに基づいた提案なのか、を決める必要がある。（香坂氏）
- ・前回の運営委員会で話合われた、武者小路委員の案の「生物多様性COP10への貢献事業」で、扱うテーマを、①生息域問題、②生息外問題、③全般的問題、にしてみたらどうかという提案があった。一方、寺井委員から、①衣、②食、③住、④文化、はどうか、という提案があった。この前回の議論を参考にしてみてもどうか？（羽後委員）
- ・COP10の本会議で扱うテーマはなかなか変更が効かないと思う。扱うテーマは前回のCOP9で基本的には決まっており、それを開催国で変えるということはできないと思う。COP9では、淡水・内陸水、保護区、持続可能な利用、沿岸・海洋域が集中検討され、困難な交渉が予想されるABS等の議論も行なわれる。（香坂氏）
- ・22のテーマの周りから議論し、問題点を持っていった方がいい。しかしこれをやれと言われて

てそれだけをやるのは面白くない。純粋学術上で議論されているものどのように結びつけていくかが問題だと思う。(寺井委員)

- ・ COP10 の本会議で扱うテーマと科学者と話し合いたい内容はほとんどリンクしない。数週間前や数ヶ月前にインプットしようと提案したものを本会議の文章には反映させることはできない。本会議にぶつけないのであれば、それは科学的にピュアなものがあるがそれを宣言文というかたちで出すことはあると思う。使命という割り切りで科学者としての尊い行為ではあるが、COP10 の政治プロセスは別であると思われる。(香坂氏)
- ・ これからの一年半で一步でも科学者や市民の声が、COP10 の本会議に反映できるように、努力することが大事だと思う。COP11、COP12 への影響という意味でも研究者やNGO が宣言文等を出すことが全く無意味というわけではないと思う。(羽後委員)
- ・ テーマによっては、各省庁が探っているものもある。例えばABSなどはある程度市民団体が言うべきことは言っている。今から新しい意見を、これからこれまでの経緯を踏まえて出すということは難しいと思うが、他の科学的な個別のトピックに対してインプットしていくことは可能かもしれない。(香坂氏)
- ・ 22 のテーマについて具体的な内容を把握して、中部ESD拠点協議会のメンバーやそれ以外の3県の大学・研究機関の研究者の中から、これらのテーマから知見を出せる方に声をかけていく。テーマによってそれぞれインプットをさせていくルートは違うと思うので、ルートを確認した上で、知見を落としていく、というやり方はどうか。(竹内委員長)
- ・ 政府に対してインプットを働きかけるのが一番近道だと思う。(香坂氏)

これらの意見交換を受けて、COP10 後のことも踏まえつつも、基本的には政府に対して、COP10 までの本会議に至る準備段階で、アカデミックな提案を行っていくこととすることにした。また、竹内委員長及び高山委員を中心に、まず上記の 22 のテーマより、中部ESD拠点協議会のメンバー及びそれ以外の大学・研究機関の研究者の専門性・関心性を鑑みながら、提案で扱うテーマに目星をつける作業を行うことが、決定された。

2) 武者小路委員案について (第14回議事メモ参照)

岡本事務局員より、前回(第14回)の運営委員会で提案された、武者小路委員のCOP10への貢献事業案の、先回の議論を踏まえた上での図式化された論点マップが提出され、それを基に以下のような種々意見交換が行われた。

- ・ アウトプットとしての市民提案書は、COP10のサイドイベントで、発表なりアピールなりするものだと思う。あるいは日本政府などに、COP10の本会議に向けてロビー活動等を行う。(竹内委員長)
- ・ 実際にCOP10の本会議に反映されなくても、それなりの意義はある。(高山委員)
- ・ COP10で扱うであろう議題・テーマとは外の議論を進めるべきでは。(竹内委員長)

3) その他

高山委員より、「CBD市民ネットワーク創設（1月25日創設）後の中部圏の組織はどうするべきか？」（資料：「CBD市民ネットワーク「地域・流域作業部会」（仮称）について」）についての私見が、報告され、主にこれらの組織と中部E S D拠点協議会との関わり方について、種々意見交換、確認が行われた。これらの意見交換等を踏まえ、今後、高山委員が、中部E S D拠点協議会がどのような形で協力できるか、について提案していくこととした。

また、岡本事務局員より、国内RCE実務者担当会議（上記、「1. 報告事項、（2）国内RCE実務者担当会議について」参照）にて、国内RCEの連携によるCOP10への何がしかの貢献に向けた事業を、中部E S D拠点協議会主導で行うことと、中部E S D拠点協議会がその案を一ヶ月程度で取りまとめることが決定された、との報告があった。そのため、岡本事務局員より、各国内RCEに対して、「生物多様性条約締約国会議COP10に向けたRCEネットワークの貢献—国内RCEの協働に関するご提案のお願い—」をメールで送り、貢献のあり方の意見を募りたい旨が、提案された。文面のいくつかの箇所に対する修正意見が、各運営委員から指摘されたため、事務局が修正案を後日、運営委員会のメーリングリストに流し、文面の再修正を行うこととした。

(3) 流域圏プロジェクトについて

羽後委員より、「伊勢・三河湾流域圏プロジェクト」の今後のアクションプランについて、以下のような案が出され、それを基に種々意見交換が行われた。

◎ 地域の活動のデータベースを作る。その際、各種イベント開催・活動によって情報を収集・データベース化し（下記1-1参照）、加えてその情報を地図情報として落とししていく（下記1-2参照）。その成果は、「第3回伊勢・三河湾流域圏フォーラム」で報告する（下記1-3参照）。

◎ データベースの構築に向けての予算獲得を、外部資金の申請によって行う（下記II参照）。

I. データベース構築に向けての準備（2009年—2010年前半）

1-1. 活動報告の収集（2009年3月—5月）

- 1) 第1回・第2回での拠点総会・フォーラムでの報告
- 2) 第1回・第2回フラグシッププロジェクト伊勢三河湾流域圏E S Dフォーラムでの報告（約30の報告発表）
- 3) 中部E S D拠点推進会議で会員に呼びかけて、活動報告を集める。
- 4) その他

1-2. 活動報告のマッピング作業（2009年5月—11月）

1-3. 2010年1月

第3回フラグシッププロジェクト伊勢三河湾流域圏E S Dフォーラムで成果報告

II. データベース構築に向けての予算計画

2010年3月

人文学・社会科学における共同研究拠点の整備推進事業への申請準備

(4) 地球憲章について

竹内委員長より、第4回総会・フォーラム実行委員会で、地球憲章についての勉強会を行うとの、連絡があった。

3. 協議会加盟団体の承認等について

永田事務局員より、2月19日現在、協議会加盟を申し込んでいる団体が1団体ある旨が、報告された。団体概要の調査が不十分なため、承認は「次回へ持ち越す」こととなった。

また岡本事務局員より、名古屋市東区まちづくり推進事業から派生した団体「ヤダ川発見隊」より、同団体が主催するイベントに対する後援名義依頼が来ている旨が報告され、承認された。

4. その他

羽後委員より、運営委員会と、中部ESD推進会議や各中部ESD拠点協議会参加団体等で行われているESDに関する各種研究会を、抱き合わせて開催してみてもどうか、との提案があった。

以 上